

令和6年度

応神中学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 基礎的基本的な学力の定着と思考力の育成を目指した学習指導の改善
- ② 主体的に学習に取り組む意欲を育てる指導の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	校長 安西 栄美 教頭 板東 順子
赤澤 三佳	1年主任 原 久枝 教務主任 新田 佳世子 2年主任 山下 真弘 研修主任 原 久枝 3年主任 山内 道明

校長

安西 栄美

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

職員会議・生徒指導委員会・学力向上検討委員会等で常に生徒の実態を話し合い、共通理解を図る。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○計算問題などの基礎学力が身についてきた。また、漢字の読み書きの力がついてきた。 ●学力の二極化があり、学力の低い生徒の基礎基本の徹底が課題である。	・基礎的基本的な知識や技能を確実に身につけることができる。 ・正しい言葉で文章を読んだり書いたりできる。 ・教師の説明や発表者の意見をしっかりと聞くことができる。	・各教科で小テスト、帰りの学活で確認問題を実施し、知識の定着を図る。自主勉強の宿題で、復習の機会を確保する。 ・授業で前時の振り返りや本時の学習内容の確認を行う。 ・テストをファイルに閉じさせ、エラズノートを活用させる。	・放課後の小テストは、各教科担当と連携し、苦手な分野を短時間で確認できる内容を厳選する。 ・エラズノートの質を上げるために、上手にまとめている子のノートを参考にする機会をもつ。	・小テストを何度も繰り返すことにより、英単語の苦手意識が減ったり授業外で教え合ったりすることができた。 ・授業で前時の振り返りをする際に確認のため同じパワーポイントを使用するなど工夫で、理解を深めることができた。	・小テストを続けることにより、基本的な内容に何度も取り組ませる。 ・エラズノートを完成させるだけで満足してしまう様子が見られた。間違ったところを大切に、理解できる場所に到達させるような手立てを講じていきたい。

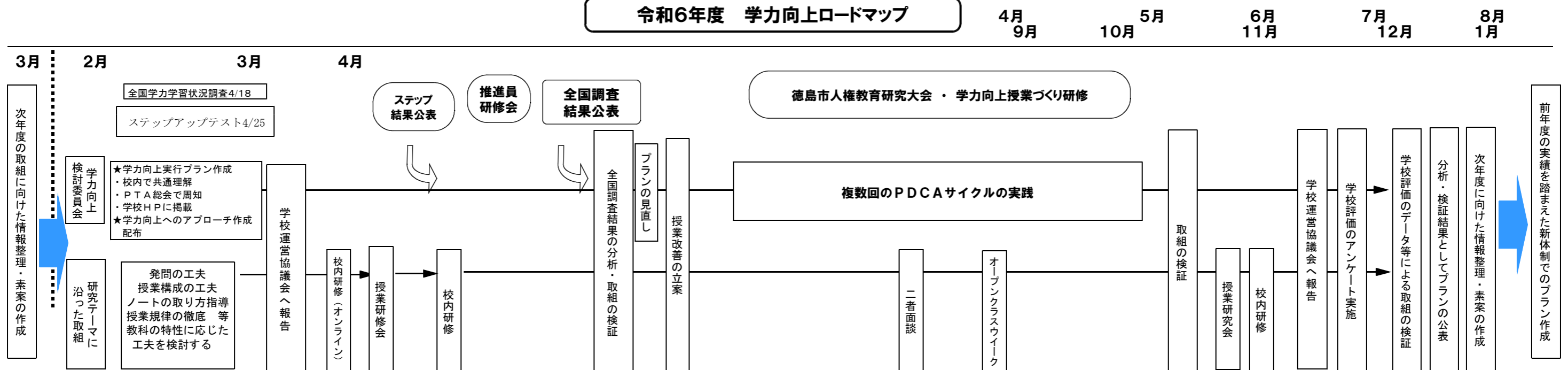
(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○タブレットを使って発表するにあたって、情報を取捨選択し、前に出てはつきり発表することができる。 ●短い画像や動画に慣れ、長い文章を読みとり自分の意見や考えを書くことが苦手な生徒が見受けられる。	・資料やグラフを読み取り、変化や特徴が理解できる。 ・根拠を明らかにして自分の考えを他人に説明したり、文章に書いたりすることができる。 ・タブレットを用いて必要な情報を選択し、プレゼンをまとめ、級友に紹介することができる。	・授業やテスト、または宿題で資料やグラフの読み取り問題を増やす。 ・ペア学習やグループ学習で生徒の発言や活動の時間を確保するとともに、様々な考えを引き出したり、思考を深める発問や授業構成を工夫する。 ・タブレットを用いて、情報を取捨選択できるように工夫させる。	・朝の活動で、基礎学力テストや高校入試の作文の問題について思考し、意見交換する場を設ける。	・朝の活動で導入した、作文の問題についての意見交換は、効果的だった。まず、自分の意見を書くことに慣れてきて速くなったこと、他人の意見を聞いて、語彙も増えたり感想も言えたりでき、多くの生徒が良かったと答えた。	・思考を深めるために、1問1答ではなく、なぜそのようになるかの過程を考えさせる場面を、授業内だけではなく普段の発問から意識していく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝読書の習慣が付き、自ら進んで読書をする生徒が増えている。また、授業をまじめに受け、授業規律が身についてきている。 ●授業の忘れ物、宿題の未提出がある生徒がいる。	・各教科とも授業中に私語がなく、授業に集中できている。 ・忘れ物がなく、宿題を確実に提出できる。 ・計画的な家庭学習の習慣が身についている。	・指導内容を工夫し、一人一人が授業に主体的に取り組めるような活動を入れる。 ・忘れ物チェックや宿題、提出物のチェックを確実に行う。	・各教科とも主体的に学べる機会を増やすため、タブレットを用いての調べ学習の時間を増やす。	・タブレットを用いて、自ら進んで調べたりまとめたりできるようになっている。 ・家庭学習は、すべきことを具体的に提示すると学習に取り組める生徒が多い。 ・忘れ物は、生徒同士で呼びかけ合うなどして、高め合える雰囲気となってきた。	・タブレットの活用には生徒も慣れてきたが、デジタルかアナログかの使い分けの効果的な方法を取捨選択できるように、考えさせたい。 ・自ら家庭学習ですべきことを考えて取り組めるような生徒を育てたい。

令和6年度 学力向上ロードマップ





結果
検証

